



「いい会社」を 創りましょう

対談

藤井正隆

株式会社イマージョン代表取締役社長

坂本光司

法政大学大学院政策創造研究科教授

「人を大切にする経営学会」の会長でもある法政大学の坂本光司教授は、数字や業績ではなく、人の幸せに着目した経営こそが、本当の経営学であり、それを貫く会社こそが「いい会社」だと確信する。人を幸せにする経営の真価とは――。

撮影：伊藤千晴

「いい会社」とは何か

藤井 坂本先生は、経営学部ご出身ですが、大学卒業後社会に出て、実際の会社経営を間近で見ると、経営に対する考え方がずいぶん変わったそうですね。

坂本 経営学部では、会社の業績や効率をいかに高めるかということを学びました。卒業後は、学んだことを社会のお役に立てたいと願い、中小企業を支援する公共機関で働きましたが、そこではまさに組織の業績や効率を高めるためのアドバイスをしていました。

ところが、たくさん現場を見る中で、大学で学んだことは真逆のことを実践している会社と時々出会うことがあったのです。すなわち、「効率を優先して三人でする仕事を一人に減らすのではなくて、三人が共に幸せに生きられるようにがんばろう」とか、「私たちは、社員をコストとして見るのではなく、社員を幸せにすることを目指しています」と言うわけです。